

令和元年11月1日発行
企画・編集 松崎 靖
発行 (株)足利屋洋品店
みどり市大間々町4-1380 (〒376-0101)
Tel 0277-73-1212
Fax 0277-70-1066

虹の架橋

今月の題字 大谷桂三さん

(東京都中央区)

歌舞伎役者の大谷桂三さんが息子の龍生君とながめ余興場で父子初舞踊公演を開催しました。次は地元の偉人の物語が歌舞伎仕立てで観られるかもしれません。

虹の架橋

検索で、インターネットからでもご覧いただけます。

十一月二十三日ながめ狂言

大蔵流の名門・茂山千五郎家！
ながめ公園で開催中の第六十二回関東菊花大会の最終前日にあたる十一月二十三日(土・祝)午後二時から、茂山千五郎家による「ながめ狂言」が開催されます。茂山千五郎家は、第十二世千五郎が父と同じ人間国宝に認定され、二〇〇七年には狂言界で初の文化勲章を受章した狂言大蔵流の名門。ながめ狂言では、その伝統を引き継ぐ、茂山あきら、第十四世・茂山千五郎、茂山千三郎、丸石やすしさんらが「柿山伏」や「附子」などの演目を演じます。



特別出演する宮田蒼一さんは大間々出身の俳優で今回の「ながめ狂言」を企画しました。狂言は、能と合わせて能楽と呼ばれ、ユネスコの世界無形文化遺産にも認定されており、日本が世界に誇る芸能です。能は面(おもて)という仮面をつけて「うで候」という格調高いせりふ回しですが、狂言は面をかぶらず素顔で演じ「うでござる」という、セリフも所作も滑稽な喜劇です。ながめ狂言の主催は、一般社団法人みなで街おこし。共催はみどり市。NPO法人・ながめ黒子の会等が協力して開催致します。当日は、ながめ狂言への入場がなんと無料です。先着五百名様に十二時から余興場前で整理券を配布いたします。(ただし、関東菊花大会の入園料四百円が必要)



小耳にはさんだ
いい話
(文責・菊)《291》

つまらないものですけど

大來さんは通訳や翻訳をする中で、日本語の本来の意味を英語にすることは難しく、特に、仏教に由来する日本語は、その意味を正確に捉えなないと語っています。

「つまらないものですけど」という言葉があります。この日本語、本当につまらないものだと誤解されるから使わないという方がいらつしやるそうです。でも、皆さんは本当に「つまらないもの」をあげているわけはありませんよ。つまらないもの

「つまらないものですけど」とは、「日頃、私があなたから受け取っている優しさ、親切心に比べてこれほど微々たるものですよ」ということを意味するのです。「つまらないものですけど」、この日本語の根底にあるのが「共生」という考え方です。「共生」は仏教の理念でもあります。渡す側が一方的にお世話になっっているわけではなくて、受け取る側も「いやいや、そうは言っても私もあなたからいろいろなものを受け取っているのですよ」とお世話になっている、双方の関係。このような、お互いがお互いを支え合って、共に生かされている状況、これ

が「共生」ですね。この共生をお互いが知っていたら「つまらないものですけど」といえないものでしょう。この日本語と共に、自然とお互い頭も下がりますね。「おかげさま」という言葉も英語に訳すのが難しい言葉ですが、人から受けた恩恵、神仏の加護という意味。それに気づき、自分の驕りを解消させる日本語が「おかげさま」なのだと言っていました。

「みやぎき中央新聞」は、毎週本当にいい記事ばかりが紹介されていて、ホーントにいいから薦めたいと思います。

第二百九十二号は十二月一日(日)発行予定です。

世界一小さな 足利屋

トイレ美術館

今月の絵《291》

筑井孝子さん『群馬の風景』



筑井(つくい)孝子先生の「ふるさと群馬の風景」2020カレンダーが出来上がりました。今年のカレンダーには群馬の代表的な風物詩でもある、前橋の初市や、みやぎの千本桜、富岡製糸場、赤城山、県庁などが描かれています。毎年好評の水彩画カレンダーは足利屋、アスクでお買物のお客様に差し上げております。数量限定のため、お早めにお申し出ください。筑井先生が描いた大間々々の絵はがき集「大間々物語」(十六枚セット・税込五百円)も足利屋、アスクで好評販売中です。

靖ちゃん日記

令和元年十月十四日(月)
今日は、ながめ余興場での「大谷桂三舞踊公演」の日。店の仕事の段取りを済ませて、八時半にながめ余興場へ。大谷桂三さん、奥様の千春さん、息子の龍生くんたちも早々と奥入りした。黒子の会の仲間が音響や照明、客席の準備をどと中、通し稽古が続けられていた。第一部は十一時開演だが、九時には一番乗りのお客さんが入口前に並ぶはじめた。歌舞伎仕立ての「走れメロス」は桂三さんが義太夫風に物語を語り、その言葉や情景を画面に映し、メロスが走るシーンでは桂三さんが花道を歌舞伎仕立てに六方と踏んで駆け抜け、拍手喝采を浴びた。桂三さんは、十三年前、五十六歳の時に三十三歳も年下の才女の千春さんと結婚して龍生くんが生まれたという。若い美少女が口説くには、何か大事かを教えてほしかったが、大事なこととを教えてもらわずに、虹の架橋の「題字」を書いてもらった。

有明の月の白さや影法師



やっちゃんの似顔絵提供…ひさかさん